

< 小学校授業計画事例 >

1 単元名 徳川家光と江戸幕府（人々のくらしと身分）

2 単元の目標

- 江戸幕府の政治に関心をもち，江戸時代の政治や社会について，進んで調べようとする。 (関心・意欲・態度)
- 江戸幕府が支配体制を強めていったことを，大名統制や身分制度の確立，鎖国について民衆の立場から考えることができる。 (思考・判断)
- 年表や地図，文章資料などを適切に活用して，調べたことをもとに自分たちの考えを交流することができる。 (技能・表現)
- 江戸時代に身分制度が確立し，武士による政治が安定したことを理解する。 (知識・理解)

3 単元計画（7時間）

主 な 学 習 活 動	配時
1 大名行列を調べてみよう ○ 大名行列の絵や参勤交代の地図を観察し，家光の力や江戸幕府の政策について調べる。	1
2 家光が大名をしたがえる ○ 武家諸法度や大名配置図，年表などから家光が大名を従えていった様子を調べる。	1
3 人々のくらしと身分 ○ 住み分けをもとに，江戸時代の人々が様々な身分に編成されていったことをとらえ，それぞれの身分の役割について考える。 (本時①) ○ それぞれの身分の人々の生活の様子を調べる。 (本時②) ○ 飢饉に苦しむ筑前のある村の決断を知り，その外の身分の人々が果たした役割について考える。 (本時③)	3
4 キリシト教を禁止する ○ 幕府の対外政策の変化とキリシト教の禁止や鎖国の影響を調べる。	1
5 鎖国の中で交流する ○ 江戸幕府が鎖国の間行っていた海外との交流を調べ，当時の貿易や文化交流についてまとめる。	1

#### 4 本時の主眼及び展開

##### 本時①の主眼

- 福岡藩の古地図や住み分け図をもとに，身分がどのようにして決まっていたのかを考える。
- 住むところによって，それぞれの身分が決められていたことを理解する。

##### 本時①の展開

配時	学習活動と内容	教師の支援
5	<p>1 前時学習を想起し，本時学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">江戸時代の身分は，どのようにして決まるか調べよう。</div>	<p>○ 大名の支配について想起させ民衆についてはどんな支配をしていたか予想させる。</p>
20	<p>2 江戸時代の身分を知らせ，どのような仕事をしていたかを考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> <p><b>【身分】</b></p> <p>武士 町人 百姓 その外の身分</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> <p><b>【職業】</b></p> <p>政治を行う，漁， 医者，大工，商人， 米作り，布を織る など</p> </div> </div> <p>・はっきりわからないのもある ・二つの身分に共通する仕事もある ・仕事では決めることはできない</p>	<p>○ それぞれの身分の人は何の仕事をしていたかという発問によって，職業で身分が決められていたことを予想させる。そこで様々な職業を提示し，どの身分の仕事であるかを話し合わせ，一覧表にまとめていく。しかしどの身分にも当てはまる仕事があり，よくわからないということを確認させる。</p> <p>○ 資料Aを提示し，仕事では身分が決められないことに気づかせる。</p>
15	<p>3 資料Bの黒田藩の古地図を見て，気づいたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武士は城のそばにいたはずだ</li> <li>・商売をしている人たちは，町に住んでいる</li> <li>・百姓はたぶん町の外側にいただろう</li> <li>・どちらにも入らない人たちがいる，どこに住んでいたのだろう</li> </ul>	<p>○ 挿絵と住み分け図を見せながら全体で話し合わせ，細かい点は教師が補足説明をしていく。</p> <p>○ 資料Bを色分けして提示し，黒田藩の住み分けを確認させる。</p>
5	<p>4 本時学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">江戸時代は，住むところによって，身分が決められていた。</div> <p>○本時学習の感想を書く。</p>	<p>○ 同じ職業でも住んでいる場所によって身分が決められたことを知らせる。その外の身分の人々は，百姓身分と同じように村に住んでいたことを知らせ，次時ではどんな暮らしをしていたか考えることを予告する。</p>

資料 A 二人の医師の肖像



本居宣長 肖像



橋本左内 肖像

資料 B 福岡城下町・博多・近隣古図



1812 (文化9)年写

九州大学記録資料館九州文化史資料部門 (九州文化史研究所) 所蔵「三奈木黒田家文書」423号

## 本時②の主眼

- 身分制度がつくられた理由を考える。
- その外の身分の人々の役割や仕事について理解する。

## 本時②の展開

配時	学習活動と内容	教師の支援
5	1 前時学習を想起し、本時学習のめあてを確かめる。	○ 前時を想起させ、それぞれの身分の人たちの暮らしについて考えていくことを確認する。
	<b>その外の身分の人々の仕事や役割を調べ、身分制度のねらいについて考えよう。</b>	
15	2 それぞれの身分でどんな義務や役割があったか、資料Cの学習プリントに自分の考えを記入して発表する。 ①裁判をしたのは ②武士身分にお金（税金）を納めたのは ③大名行列の手伝いは ④国を守るのは ⑤ため池や用水路を整備したのは ⑥武士身分になめた皮を納めたのは ⑦犯罪者を逮捕したのは ⑧外国船を監視したのは ⑨武士身分に米（年貢）を納めたのは ⑩橋や道路を工事したのは	○ 本来の仕事の他に様々な役を負わされていたことを補足し、どの身分の人たちに課せられたものだったか学習プリントを使って考えさせる。 ○ 皮を使うことについては、武器づくりなど特殊な技術の仕事で、そのために異質なものとしてのとらえがあったことにもふれる。このことがケガレ意識とつながって、民衆の中での差別をつくっていったことも考えさせる。
10	3 身分制度をきびしくした理由についてグループで話し合う。 ・民衆が力を合わせないようにするため ・武士への不満をそらすため	○ 他のグループの考えのよいところや共感するところを取り入れるように示唆する。
10	4 全体で交流する。	○ 身分の違いによって差別があったこと、その中で人々がそれを当たり前として生活していたこと、それを利用して幕府は支配を強めていったことに気づかせる。
5	5 本時学習を振り返り、次時の学習について知る。 <b>身分制度のねらいは、民衆のケガレ意識を利用し、武士への不満をそらし、それをその外の身分の人々に向けさせることである。</b> ○感想や新たな疑問を書く。	○ 次時の学習では、同じ仕事をしながらも差別があったことから、ある村の取り組みについて考えていくことを知らせる。

## 社会科学習プリント

6年（ ）組 氏名（ ）

○次の役目をになっていたと思う身分の名前を書きましょう。

役 目	身 分
① 裁判をしたのは	
② 武士身分にお金（税金）を納めたのは	
③ 大名行列の手伝いは	
④ 国を守るのは	
⑤ ため池や用水路を整備したのは	
⑥ 武士身分になめした皮を納めたのは	
⑦ 犯罪者を逮捕したのは	
⑧ 外国船を監視したのは	
⑨ 武士身分に米（年貢）を納めたのは	
⑩ 橋や道路を工事したのは	

### 本時③の主眼

- 飢饉の際に桜村に呼ばれて風村からきたその外の身分の人々が、厳しい条件の中でも、たくましく生きていったことを理解する。
- 資料を活用したり、意見を交流したりすることを通して、風村の人々の生き方について共感することができる。

### 本時③の展開（60分授業）

配時	学習活動と内容	教師の支援
25	<p>1 本時学習のめあてをつかむ。</p> <p>(1) 桜村の状況を想起し、苦しい状況をのりこえるために呼ばれた風村の人たちはどうしたのか考え、発表する。</p> <p><b>【桜村の状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飢饉と逃散により、村受けの税を納めることができずに、苦しんでいる</li> <li>・ 他の村から百姓身分の人を受け入れたが、やはり逃げられた</li> <li>・ 仕方なくその外の身分である風村の人々を呼び入れた</li> </ul> <p><b>【風村の人々はどうしたのだろうか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今まで農民は逃げていたから、やっぱり逃げた</li> <li>・ 農民は苦しくても収穫を高める努力をしていたから、工夫して収穫を高めた</li> <li>・ 一揆をおこした</li> </ul> <p>(2) 本時学習のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 風村の人々は、“悪田”を与えられた</li> <li>・ 厳しい条件の中でも、逃げ出さず、最後までがんばった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の課題を振り返るために資料Dを提示する。</li> <li>○ 歴史的事実から予想をしていく力を高めるために、根拠を明らかにして発言している子どもを賞賛する。</li> <li>○ 風村の人々に与えられた田が厳しい条件の悪田であることを理解させるために、資料Eを提示する。</li> </ul>
<p><b>風村の人が逃げ出さず、最後までがんばることができた理由を考えよう。</b></p>		
15	<p>2 風村の人たちが逃げ出さず、最後まで努力することができた理由を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高い農業技術を持っていたから、乗り越えられた</li> <li>・ 自分たちは新しい田をもつことができないのに、新しい田が持てるから、絶対にがんばろうと思った</li> <li>・ 差別に苦しんできたから、根性があった</li> <li>・ 困っている人たちを見捨てて、逃げることができなかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料Fから、自分の考えをノートにまとめさせる。</li> </ul>

1 5	<p>3 努力することができた理由を交流する。          (グループ→全体交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ交流で自分の考えを深め、広げる</li> <li>・全体で交流し、風村の人々が最後まで努力した理由をまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 考えを深めさせるためにグループで話し合わせた後、全体で考えを交流させる。</li> <li>○ 風村の人が最後まで努力した理由を明確にするために、発言を観点ごとに板書する。</li> </ul>
5	<p>4 本時学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>風村の人たちは、厳しい差別を受けていたが、農業の高い技術をもち、苦しい状況に負けないでがんばるたくましさをもっていたので、最後まで逃げ出さず、努力することができた。</b></p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これからの学習につなぐことができるよう、民衆が厳しい支配の中でも、身分をこえて協力していたことをおさえる。</li> <li>○ よりよい生活を築いていこうと努力してきたという視点をもたせるために、桜村の人々はどんな気持ちだったかということを考えさせる。</li> </ul>



鎧



和太鼓

## 全国で大ききん被害拡大

### 【昨年】

- 雨が降り続き麦作は全滅！洪水で苗は流されたり，腐ったりした。
- ウンカとイナゴが異常発生，稲は食い倒され，前年の1%しか収穫がない。

### 【今年】

- 昨年に続き米・麦ともに不作で，大ききんになっている。福岡藩の発表では，餓死者10万人，これは藩の人口の3分の1にあたる。



百姓は，年貢が納められず，食べるものもなく，苦しい生活が続いている。そのため，藩から借金をしたり，行く当てもないのに死さえ覚悟して，村を逃げ出したりするものが増えている。



## 米を作る百姓が足りない！

大ききんでたくさんの百姓が死んだ。また、村を逃げ出さなければならなくなった百姓もつぎつぎに出ている。農村は、しんこくな人手不足に苦しんでいる。

また、年貢は村全体で納めることになっているので、逃げたり、いなくなったりした百姓が増えた村では、その百姓の分まで年貢を納めなくてはならない。人手が少なくなったのに年貢の量は変わらず、米が作れなくなった田んぼをかかえて困っている。

## 他の国から百姓を呼び入れた桜村

桜村では、なんとか米を作っていくために、わざわざ他の国から新しい百姓を呼び、作り手がいなくなっていた「荒田」（手入れがされず荒れている田）や「浮田」（作り手がいない田）を分け与えた。しかし、もともと条件が悪い田だったので、この新しい百姓たちにも夜逃げされてしまった。結局、その百姓たちの分の年貢も増えたため、桜村の生活はより苦しくなっていた。

## 米を作る百姓がたりない！②

困りはてた桜村は，どうしたらよいか庄屋に相談した。そこで庄屋は，大庄屋に，大庄屋は郡奉行（こおりぶぎょう…武士身分）に相談し，困り果てた役人たちは，仕方なく桜村の近くにいた風村の「その外の身分」の人々を呼び入れることにした。



古賀市教育委員会「人権・部落問題学習事例集」

## 悪田を良田に変えた風村の人々

風村の人々にとって、違う村から百姓として呼ばれることは、生きていくための希望の光になっていた。

「たとえせまくても自分の田がもてるし、米が食べられる。」  
 今までの生活から考えれば、夢のような話であった。

「どんなに苦しくてもがんばってみよう。」

という気持ちが強くなったのもうなづける。桜村の条件のしんさを通った人々は、風村を出発するときに、とても生き生きとした姿だった。



すべての田に人がはいり、百姓たちはより多くの米の収穫を期待した。しかし、この年も天候が悪く、不作の年だった。新しく呼ばれた風村の人々も、農業のうでは確かなものだったが、条件の悪い土地では思うように米を作れなかった。八軒のうち二軒は、なんとか収穫をあげたのだが、残りの六軒は、ほとんど収穫をあげることができなかった。当然のことだが、その六軒の生活は苦しくなった。食べる物も十分になく、いつ逃げ出してもおかしくない状況であった。しかし、こんな苦しい状況においても、彼らは逃げ出すことはなかった。



### 風村八軒の人々の話

「はじめての田植えは、そりやあなんぎ（大変）でした。

借りた道具はそまつなもので、荒れた田んぼには、葎（あし）：水辺にはえている丈の高い草）が、びっしりはえて、田おこしだけでも腰の骨がおれるんじゃないかと思える重労働だった。水はけの悪い田んぼで、腰まで水につかり、足を一歩動かすのも



ひと苦勞。あまりのつらさに何度も逃げだそうと思った。だけど、この田んぼはまわがいたなく自分の田んぼだ。苦勞してもできた米が手にはいる。生まれた村の苦しい生活から考えれば、そりやあ夢みたいだった。」

そして、八十年後、この八軒は二十軒に増え、  
 田畑九町九畝二十二歩を開墾した。

